

田んぼアート発祥の地で  
世界の第一人者から伝授

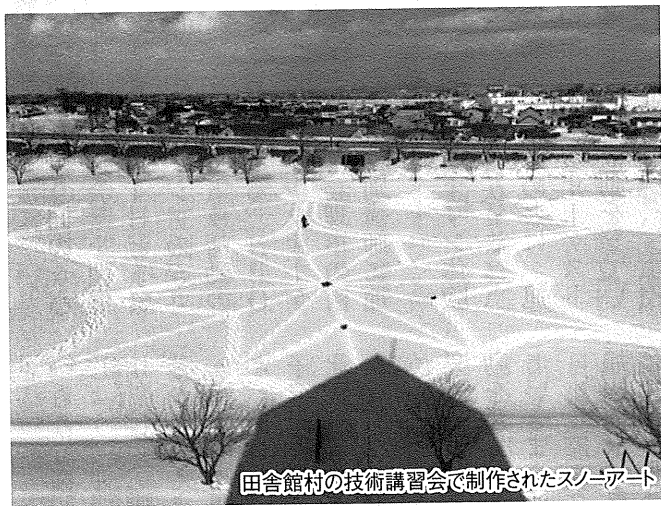
写真をテーマに町づくりや人づくりの力を入れる東川町。全国の高校生が東川に集結して行われる「写真甲子園」は好評で、来年度からは映画制作に取り組み活況ぶりだ。そんな「写真のまち」がスノーアートに着目したきっかけは、田んぼアート発祥の地、青森県田舎館村が冬季の地域おこしとしてスノーアートを導入したことにある。

田舎館村では昨年2月、イギリス人スノーアートの第一人者であるサイモン・ベック氏を招き作品制作と技術講習会を開催したが、それに東川町からも関係者4人が参加。ノウハウを学び帰町後、試作を通じて新たな冬の観光ツールとして検討を進めることになったのが、スノーアートだ。

# 描く光と影の芸術 体験型観光

講習会に参加した東川町の視察団は、東川町を拠点に体験型観光のコーディネートを行う企画会社「アグリテック」、ひがしかわ観光協会、東川町地域おこし協力隊のメンバー合わせて4者。左右

対称の幾何学模様のスノーアートを作成する方法やデザインについて学ぶとともに、制作体験を通じて理解を深め合った。ベック氏はオックスフォード大学で工学を学んだ後、野山を駆け巡るオリエンテーリングの地図技師として活躍。2004（平成16）年にフランスのリゾート地に別荘を所有したのを機に始めた



田舎館村の技術講習会で制作されたスノーアート

のがスノーアートだ。9年からはスノーアートのストとして本格的に活動を展開し、アウディヤルイ・ヴィトンなどの大手企業とタイアップし、多方面から注目を集めている。足跡のみで作品づくりを行うのは、世界でもこのベック氏だけだという。

ベック氏が手がける作品は幾何学模様が主体だが、下書きもせず、頭の中に描いたイメージをもとに制作する。その数は約250種類にのぼる。スノーシューを履き、ひたすら雪原を踏み歩いて6時間から9時間ほどかけ一人

で仕上げるが、使う道具はコンパスに巻尺、目印用ポール。作業をいったん始めると、終了するまではエネルギー効率のいいコーラとバナナ以外、何も口にはしない。

ベック氏が講習会で伝授した制作方法には、中心から始めるものと、端から作っていくタイプがある。基本的には歩数を数えて大きさを設定するが、グループで作業する場合、リーダーがアウトラインを描き、後続者が、その歩幅に合わせて、円を描く場合には、中心にポールを立て、結んだ紐をコンパスのようにして描いていく。陰影をつける場合は、踏み固める場所と残す場所とを決め、日光と平行に足跡を残すと影が美しく見えるのだという。

完成後に雪が降っても、踏み固めた場所が凹んで跡が分かる場合は、それ

スノーアートの第一人者サイモン・ベック氏

に沿って再度踏み固めていけばいい。雪質や風の影響で踏み跡が消えてしまふのではとの懸念もあるが、氏はパウダースノーであっても深く踏み固め問題は無いと指摘する。この制作体験を通じて東川町の視察団は「スノーアートはデザインとペースとなるアウトラインが決まっていれば、基本的には単純なウォーキング

# 雪原を踏み固めて 東川町で冬の新たな スノーアート

グの連続動作で、子どもから中高年まで幅広い年齢層が参加できる。冬期間の健康づくりや作品コンテ

## ベックジュニア 育成し可能性を模索

人口が8000人ほどの田舎館村には、津軽地方の中心都市・弘前市と隣接して米作中心の田園地帯が広がる。その田園

「写真のまち」東川町で冬の観光を活気づける新たな取り組みが始まった。スノーシューなどを活用し、足で雪原を踏み固めて描く「スノーアート」。太陽の光を受けると陰影が美しく浮かび上がり、体験型観光として幅広い世代が手軽に楽しめる魅力的なプログラムだ。

スト、チームビルディングなどのプログラムとして多くの可能性があり「とらえていく。風景を鮮やかに彩るのが田んぼアートで、海外からも制作依頼が来るほどの人気ぶりだが、青森県が「アートの二毛作」と称し、夏の田んぼアートに続いて冬の地域おこしとして提案したのがスノーアートだ。2015年から3年間、ベック氏を招いて制作を依頼し、その作品を観覧するイベントを開催して期間中、一日に約3000人を動員し好評を得た。

そんな田舎館村から戻った東川の視察団は昨年3月、同町ゆめ公園でスノーアートの試作に挑ん

だ。ひがしかわ観光協会が主催して今年2月15、16の両日には東川町森林体験研修センター（キトウシ森林公園内）でベック氏を招いて「スノーアートワークショップ」も開いた。アウトドア・ネイチャーガイド、観光・温泉施設関係者などを対象にスノーアートのエキスパートを養成する講座で、制作実習ではベック氏と同様「必需品」のコーラとバナナを持参し雪原を踏み歩いた。

参加者の制作ぶりを見守ったベック氏は「アートのストとして一歩踏み出した。ほかのエリアの人たちより東川町にはアドバンテージがあるので、何回でも練習して腕を磨き、これからの活躍を祈る」とエールを送る。

ワークショップに参加した東川町のネイチャーガイド「ガイドオフィス風」の鳥羽晃一さんは「普

段は自分が描いた手の平にのるくらいのを、こんな大きなアート作品にするのは滅多にない。黙々と歩いている時間が長く、人生を振り返るのにもいい。

ひがしかわ観光協会のウィルコック香奈子アシスタントマネージャーは「雪を使って何か新しいことができないかと思っていたが、スノーアートには可能性を感じる」と述べながら、こう語る。「東川には田んぼが多く、平らな場所が広がっている。国際交流がさかんで日本語学校のアジアからの生徒さんなどは、雪の体験がしたくてもスキーは難しく怪我をしたりしているが、スノーシューなら幅広い世代が手軽に楽しめる。修学旅行や生涯学習、健康づくりにも一役買うことができる」。旭岳には近く「エコツアーズムセンター」が開設さ

れる予定で、その体験プログラムとして、さらにはロープウェイが強風で利用できない時にホテルの敷地スペースなどを使って行うことも可能だ。このほか「アートを作

る場所は、田んぼは意外にデコボコが大きいので、学校のグラウンドや畑のほ

うがやりやすい」「スノーアートには見る楽しみと作る楽しさがある」といった意見も出ている。ワークシヨップ後、参加者らは「北海道スノーアートエキスパート推進連絡会（略称「HESA」）を発足させた。スノーア

ートの普及やイベントを行う際に情報交換や制作技術を共有したり、イベントを支援し合う、ゆるい組織」であり、冬の北海道観光や地域活性化をはかるのが目的だ。

今後の展開としては、スノーアートのエキスパートを中心に体験観光や企業研修の受け入れ、チームビルディングにおける制作体験プログラムの作成、イベントやコンテンツの開催を考えている。ひがしかわ観光協会の高橋匡事業推進マネージャーは「将来的には東川町だけにとどまらず、大雪

発想の根底には「旭川空港を発着する飛行機の窓からパッと見たとき、環境にもやさしく、不思議な絵がある。日本で唯一そんなことを楽しめる空港があってもいいのでは」との思いがある」と高橋マネージャー。

HESAの事務局を務める中田浩康さん（アグリテック社長）は「達成感のある作業で、可能性を感じる。ベックジュニア」がたくさん育つことを願いつつ、デザインにも力を入れている写真のまちでスノーアート写真コンテストなどを行うのもいい」と語る。

シエルピンスキー（自己相似的な無数の三角形からなる図形）のデザインは、ベック氏の得意とするスノーアートだが、シエルピンスキーが続く白い大地は、冬の北海道を彩る新たな「売り」となりそうだ。（橋野）



東川町ではエキスパート養成講座も

今月の



沖繩のロックシンガー「城間健市」！北海道のけんちゃんも沖繩のけんちゃんと呼び合っています。彼の公式グッズTシャツのイラストを数年前から描いています。これは、東京新橋のお店でライブした時にスケッチしたものです。けんちゃん最高！

はじめまして、絵を描く事とオートバイに乗る事が大好きな小川けんいちと申します。文庫サイズの本紙（170×240mm）に描いたイラストを愛しい方へプレゼントとして送らせています。街角、信待、雷屋内、病院の待合室、ラジオ収録中、ラーメン屋... 本業は衝動野郎のイラストレーター、グラフィックデザイナーです。ブログに毎日投稿しております。絵やデザインで、楽しんで明るく笑ってほしいです。安心や希望を届けたい！

「小川けんいち」フェイスブック ホームページ ブログ ございます  
<http://ken1world.com> <https://www.facebook.com/kenichioogawa.101> <http://syouniku.com>  
 ライン@けんいち <https://www.line.me/tv/kenichioogawa>  
 「風がかりの照子(あかり)」  
 私のあかりちゃんがモデルになっています

「いいてんき」(絵本) 手織りの服「うさと」×デザイン・イラストレーション「昇夢虹」 FAX注文受付中【いいてんき うさと】で検索!  
 フロー経営の奇跡①「名経営者に育った平凡な主婦の物語」(経営漫画) 原作/天外伺朗 作画/小川健一 Amazon、主要書店で好評発売中!

全国放送のテレビ番組出演の名物オーナー

額縁のピカソで「春。元気なピカソ展」

額縁のデパートとも呼ばれる旭川市の老舗画材店「額縁のピカソ」(3条通1丁目)。「元気なお店」を合言葉に地域でも広く親しまれているが、オーナーの「マチコママ」は言わずと知れた名物オーナー。周囲から「いつも元氣と活力を与えてくれる存在」と評判で、ママ自身のファンも多いという。そんなママの評判を聞きつけてか、この2月には、ママが立て続けに全国放送のTV番組「開運!なんでも鑑定団」「月曜から夜ふ

かし」に出演。独特な存在感を發揮して注目を集めたが、店の入り口に貼ってあるママの似顔絵を描いたイラストレーター＆グラフィックデザイナーの小川けんいちさんは4月1日から、毎年恒例にしている「春。元気なピカソ展」を、店の2階にあるギャラリースペース「ピカソ画廊」で開催する。小川さんが講師を務めるスケッチ教室の生徒さんの作品も一緒に展示。小川さんは「ピカソさんとは10年来のお付き合い。賑やかな展示会を予定しており、ぜひお越しを」と小川さんは多数の来場をPRしている。4月30日まで。入場は無料。

あっぱっはっはっ!!  
 小川けんいちと仲間たち「春。元気なピカソ展」  
**OGAWA KENICHI**  
<http://ken1world.com>  
 2017.4.1sat~30sun  
 ピカソ画廊 10:00~18:00 (最終日は15:00終了とさせていただきます)  
 額縁のピカソ2F 旭川市3条1丁目右10号 TEL 0166-26-0077  
<http://www.picaso.jp>